

教育委員会だより

令和6年2月28日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

力作が勢揃い ～第59回 土と版画展～

2月3日（土）から4日（日）の2日間、バロー文化ホールを会場に『第59回 土と版画展』を開催しました。土と版画という造形活動を通して、子供が作り出した作品に感動したり自分の作品を慈しんだりすることを目指し、長年に渡って開催している展覧会です。本年度も、市内幼・保・小・中と東濃特別支援学校（市内在住）の児童生徒の力作約900点が勢揃いしました。それぞれの作品は、学年の発達に段階に応じた造形活動となるよう様々に工夫されています。また、作品の発展性が伝わるよう多治見市図工・美術教育研究会の先生方がレイアウトも工夫してくださいました。



家族連れの来場者も多く、お子さんの作品の前で写真撮影をする姿も見られました。思わず会話が弾む様子から、家族で過ごす素敵な時間にもなっていることを感じました。この伝統的な行事を、今後も益々発展させていきたいものです。

地域に広く情報提供 ～^{もり}杜・笠原小中ニュース～

笠原小中学校の開校に向けた取組を笠原地域に広くお知らせしたいと考え、『杜・笠原小中ニュース』を発行することにしました（別紙参照）。不定期発行ではありますが、笠原幼保小中一貫教育研究会の開催時期に合わせて発行し、地域のみなさまに様々な情報を発信していきます。第1号では、小学校仮設校舎の完成・小学校校舎とのお別れ会の告知・校章アンケートの実施・各ワーキンググループの進捗状況などを掲載しました。また、笠原幼保小中に在籍する子供の家庭に加え、笠原地域にある8つの区の区長さんをお願いし、回覧板に入れていただくようにしました。子供や家族だけでなく、笠原地域の大きな期待を背負っていく新しい学校について「知りたい！」が分かるお便りにしていきます。

認められる喜び ～教育長賞詞・各種表彰～

教育委員会では、主に子供の“善行”を顕彰する『教育長賞詞』の事業を15年前から実施しています。本年度は、市P連の会長さんも交えた厳正なる審査により、全小・中学校合わせて57件（個人46件、団体11件）の表彰が決定しました。各学校や地域の団体から推薦をいただいての審査ですので、内容は多岐に渡ります。各校の児童会・生徒会、ボランティアグループ、個人などの取組について『チャレンジ大賞』『元気大賞』『思いやり大賞』の3部門で表彰します。

優れた成績を収めたスポーツや芸術については、それぞれに表彰を受ける機会があります。一方で、いわゆる“善行”については、校内で認められる機会はあるものの、このような形で表彰を受けることはあまりありません。スポーツや芸術におけるがんばり同様に“心根の良さ”をしっかりと認めることで、健やかな多治見の子が育つことを願っています。2月末までに教育長が学校を訪問し、お祝いの言葉を添えて楯（団体）やメダル（個人）を手渡しています。



また、この時期には、県教育委員会や関係団体などによる学校表彰のお知らせが届きます。ここで、市内小・中学校のがんばりを紹介します。

- ・県教育委員会〔岐阜県ふるさと教育表彰〕優秀賞：市之倉小学校
- ・東濃地区教育推進協議会〔学校図書館教育賞〕優秀賞（管理部門）：昭和小学校
- ・県人権教育協議会〔人権文化あふれる学校賞（特別賞）〕：陶都中学校
- ・県人権教育協議会〔ひびきあい賞〕：市之倉・池田・笠原小、陶都・小泉中

がんばりを認められることは、喜びや自信につながっていきます。今後も、多治見の子供たちがこのような機会に自信や自己有用感を高め、さらなる挑戦にたくましく向かっていってくれることを楽しみにしています。

副教育長のひとりごと ～卒業式は、誰のもの？～

卒業式は、“最も重要な学校行事”といわれます。それは、小学校6年間、中学校3年間をやり抜いた証である卒業証書を手にする日だからです。多くの子供が家族や地域の方々から「祝福される日」である一方で、家族や周りの人々に「感謝を伝える日」でもあるのです。親子の間でも改まってお礼をいうのは少々恥ずかしいものかもしれませんが、そうやって親子が互いに感慨深い節目を刻む時間の大切さを感じつつ、卒業式に臨んできました。卒業式は、みんなのもの！